

## 仲間と共に伸びる力の育成

### —なわとびあそび・マットあそびの学習を通して—

安田 奈津子

弘前大学教育学部附属小学校

#### 要 旨

小学校1学年体育科学習における「基本の運動～用具を操作する運動～」(なわとびあそび)「基本の運動～器械・器具を使う運動～」(マットあそび)の単元を通して、仲間の良い動きに気づいたり、つまずきを見つけたり、互いにかかわりながらアドバイスし合える力を育てる単元はどうあるべきかを授業実践し考察した。

単元を2段階構成とし、単元の前半に基本的な技能のポイントを押さえ、後半は、友達とペアを組んでさまざまな運動に取り組ませた。単元の前半に押さえたポイントをもとに、自分のペアの動きを見て、アドバイスをし合ったりすることで、技能もより高まり、友達とかかわって運動を楽しむことの喜びも味わうことができた。

[キーワード] 基本の運動 つまずき アドバイス ペア学習

#### 1. はじめに

今日、子どもを取り巻く状況は、いじめや不登校、社会体験の不足など、豊かな人間性をはぐくむには困難な課題が多く存在する。そのような社会情勢の中で、日々の教育活動を通し、豊かな心とたくましい人間性を培っていかなくてはならないと考える。

体育科においても例外ではなく、学習指導要領の体育科編、総説に

明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成を目指し、生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康保持の基礎を培う。

とある。また、体育科の目標は

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむや能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

となっている。

このような基礎を体育科の学習で養うためには、まず子どもたちの中に、運動することを好む態度を育てなければならない。その力は、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していく力につながるのではないと思われる。「自ら運動する意欲をもつことができる。」「友達と運動することの楽しさを知ることができる。」「できなかったことができるようになったことの喜び(技能の伸び)を体感できる。」などを体育科の学習で経験させ、運動に親しむ態度を育てることが、生涯スポーツの基礎となる資質を養うことになるのではないかと考える。

#### 2. 研究目的と児童の実態

現在、小学校一年生を担当している。子どもたちの様子を見てみると、休み時間は鬼ご

っこをしたり、なわとび、鉄棒、うんていなどに取り組んだり体を動かすことを好む児童が多いことに気づく。体育の学習においても体を動かすことを好み意欲的に楽しく運動に取り組んでいる。それは下記の体育アンケートの結果からもうかがえる。ただ、子どもたちの運動・遊びの様子を見ていると、個人でそれらを楽しむ傾向がある。技能を向上させるためにも、運動の楽しさをより味わわせるためにも、友達とかかわって運動することの楽しさを体感させたい。体育アンケートの回答の中に「友達と体育をするから好き」「友達とできるから好き」という意見も多く出されている。友達とかかわって運動することの楽しさを知りはじめている子も多い。その態度を学級全体に広めるように指導していきたい。友達とかかわる場面（ペア学習）を多く取り入れた授業を展開することで、より友達とかかわって運動することの楽しさも知ることができし、お互いの動きを見合うことにより、動きを見る目も養われ、より技能も高まると考えられる。

体育アンケート（児童数 28人）

①体育はすきですか。 すき（27人） ふつう（1人）

②その理由を教えてください。

すき（27人）

《友達とのかかわりを理由にあげている児童》（8人）

- ・みんなとやれてうれしいから。（1人）
- ・友達と体育をするから。（1人）
- ・体を動かしたり、友達とやったり、汗をかいたりするから。（1人）
- ・体を動かすのと走るのと友達とできるのが好き。（1人）
- ・いろいろなことをするから好き。（4人）

《運動の楽しさを感じている児童》（9人）

- ・体を動かしたり、いろいろなコースがあるから。（1人）
- ・体を動かすのが好き。（3人）
- ・運動が好きだから。（2人）
- ・いろいろな運動が好き（3人）

《特定の種目を理由にあげている児童》（9人）

- ・鬼ごっこや競争をするから。
- ・なわとびが好きだから。（3人）
- ・なわとびが得意だから。（2人）
- ・鬼ごっこやなわとびをやるから。（1人）
- ・鬼ごっこをするから。（1人）
- ・走るのが好きだから。（1人）
- ・競争をするから。（1人）

《できようになることに喜びを感じている児童》

- ・体育でやるとできるようになるからすきです。（1人）

ふつう（1人）

- ・ちょっとつかれるから。

### 3. 題材について

子どものかかわり合いながら学ぶ力を育てるために「基本の運動～用具を操作する運動～」(なわとびあそび)と「基本の運動～器械・器具を使う運動～」(マットあそび)の題材を選択した。それぞれの題材の特性を以下に述べる。

「基本の運動」の内容とねらいは学習指導要領によると

- (ア) 基本の運動は、低学年及び中学年の児童が各種の易しい運動について仲間と競争やいろいろな課題に取り組むことによって、運動をしたいという欲求を充足し、その楽しさや喜びを味わい運動好きにすることができる運動(遊び)ある。
- (イ) 基本の運動の内容は、主として個人で成立する運動(遊び)に着目して構成したものである。「基本の運動～用具を操作する運動～」(なわとび)低学年は運動遊びとなっているのが、これは児童が易しい運動に出会い、伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わう遊びであることを強調しているものである。また、走・跳の運動(遊び)、器械・器具を使つての運動(遊び)水遊び、浮く・泳ぐ運動、表現リズム遊びはそれぞれ陸上運動、器械運動、水泳、表現運動に発展し、さらに力だめしの運動(遊び)や用具を操作する運動(遊び)は、高学年の体づくり運動への発展が期待できる。このように、基本の運動は、低学年及び中学年の児童が運動好きになるとともに体の基本的な動きを身に付け、各種の運動の基礎を培うために重要な運動(遊び)である。

とある。以上の点から基本の運動は「運動の楽しさを味わい運動好きにすることができる易しい運動(遊び)」「個人として成立する運動(遊び)で構成されている」「中学年、高学年につながる運動の基礎を培うための(遊び)」であるといえる。個人として成立する運動ではあるが、運動自体が個人として成立するのであって、体育科の学習としては友達とのかかわりを大切にしたいと考える。それは、ロシアの発達精神学者ビゴツキーが提唱するように、「個人の発達は、友達とのかかわりによって(協同追求)によって伸びるものである。」という考えによるものである。したがって、本研究では、「基本の運動」の内容・ねらいを踏まえて、易しい運動、課題に取り組ませ、運動の欲求を満たしながら、楽しさを体感させ、そして、友達とかかわりながらより運動の楽しさを感じ、運動の基本的な動きが身につくように単元の流れを構成したいと考える。

このような基本の運動のねらい・内容を考慮しつつ、本研究で取り上げた題材は「基本の運動～用具を操作する運動～」(なわとびあそび)と「基本の運動～器械・器具を使う運動～」(マットあそび)である。まず、この二つの題材の特性について述べたい。

#### 用具を操作する運動

・なわ、輪、竹馬などの各種の用具を巧に操作したり、用具の動きに合わせて自分の体をいろいろに動かしたりして楽しむことのできる運動(遊び)である。またそれぞれの児童の能力にふさわしい課題への取組や仲間と競争する楽しさも味わうことのできる運動(遊び)である。

#### 器械・器具を使う運動

・固定施設、マット、鉄棒、平均台、跳び箱などの器械・器具を使って、いろいろな動きや自分の力にふさわしい課題に取り組む楽しさを味わうことのできる運動(遊び)である。

という特性が学習指導要領に明記されている。なわとびあそびはとんだ回数がはっきりし、自分の課題が明確に持ちやすく、また、友達の技能のつまずき（なかなかとべない、長続きしない）が明確に把握できる題材であるため、ペア学習の導入には適していると考え取り上げた。マットあそびは、自分の能力にふさわしい課題を設定しやすい。自分の動きを客観的に見てアドバイスしてくれる友達がいることにより、自分の課題の把握も容易になるし、基本的な動きもより身に付くと考えこの題材を設定した。

#### 4. 授業構想

二つの題材を通して、児童に身につけたい力は、お互いの動きを意識し、良い動きやつまずきに気づきながら運動することで、友達とかかわって運動することの楽しさを知り、基本的な技能を身に付けられる力である。その力を育成するために以下の方法、手段で授業を進めていきたい。

①単元全体を2段階に分けて進める。単元の最初に、簡単な運動遊びを通して、技能のポイントに気づかせながら指導を進める。その後、学習した技能のポイントを生かしながら、友達とペアになってそれぞれの課題に挑戦する。そのつどお互いの動きについて、アドバイスし合うように指導する。そのアドバイスを生かして、次の課題に挑戦するようにさせる。それによって、友達の動きを意識しながら活動することの良さを知り、基本的な動きが身につくと思える。

②授業の最後に学習カードに記入させる。学習カードには次の項目を設ける。

- ・自分の技能、態度に対する自己評価。
- ・友達からのアドバイス（記述）
- ・本時を振り返っての感想（記述）
- ・次時につながる課題（記述）

以上の項目が盛りこまれた、学習カードを記入させ、児童の学習への取り組みを把握し、友達とのかかわり方を知り、次時へ生かす。

③なわとびあそび→マットあそびと、二つの題材を同じ単元構想で授業をし、なわとびあそびで培われた子どもたちのかかわり合いながら運動に親しむ力が、次の単元で生かされているか授業を通して検証する。

#### 5. 授業の実際

基本の運動のねらい・内容をふまえながら、ペア学習、学習カードの手段をこうすることで、児童がお互いにアドバイスをし合いながら、かかわり合って運動することの良さ、楽しさを知り、それによって基本的な技能に伸びが見られるかを授業を通して考えていく。

##### 実践1 「なわとびあそび」（基本の運動）

- ①対象児童 弘前大学教育学部附属小学校1年1組 28名  
②日時 平成17年11月

◎1時間目「いろいろなとびかたにちょうせんしよう」

〈取り上げたとび方〉

- ・まえまわしとび
- ・うしろまわしとび
- ・かたあしとび
- ・すきなとび方

教師が取り上げた基本的な技能のポイントは以下の通りである。

**表 1, 取り上げた技能のポイント (なわとびあそび)**

とび方	技能のポイント
まえまわしとび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つま先でとぶ</li> <li>・手首を使ってなわを回す</li> <li>・手首を体の外に出す</li> <li>・手首をすばやく回す</li> </ul>
うしろまわしとび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つま先でとぶ</li> <li>・手首を使ってなわを回す</li> <li>・手首を体の外に出す</li> <li>・手首をすばやく回す</li> </ul>
かた足とび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足の付き方</li> <li>・バランス</li> <li>・つま先でとぶ</li> <li>・手首を使ってなわを回す</li> <li>・手首を体の外に出す</li> <li>・手首をすばやく回す</li> </ul>

本時では、以上の技能的なポイントをおさえながら、授業を進めていった。

◎2 時間目「たくさんとべるようになろう」

1 時間目に取り上げたとび方のポイントを確認する。ペアを組ませ、お互いのとんだ回数を数えさせる。また、よりたくさんとべるように友達の良い動きを見つけたり、つまずきについてアドバイスをさせる。

**表 2 児童の学習カードより (なわとびあそび)**

友達からのアドバイス	本時を振り返っての感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいしょはゆっくりまして、だんだんスピードを上げていくといいよ。</li> <li>・はじめはゆっくりまわしてだんだんはやくますといいよ。</li> <li>・うしろとびをもっとがんばればいいよ。</li> <li>・バランスをよくすればいいよ。</li> <li>・ともだちにとび方がじょうず。</li> <li>・がんばったね。</li> <li>・なわをよく見てとんだらいいよ。</li> <li>・つまさきでとんだほうがいいよ。</li> <li>・もうちょっとかた足とびの足をまえに出したらいいよ。</li> <li>・なわにひっからないようにもう少したかくとぶといいよ。</li> <li>・まえまわしはもっとはやくまわすとか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいごにまえまわしで81回もとべてうれしかったです。</li> <li>・なわとびがうまくなりました。</li> <li>・100回をこえたのがはじめてでした。うれしかったです。</li> <li>・わたしも、ともだちもたくさんとびました。</li> <li>・がんばったねといわれてうれしかった。</li> <li>・たくさんとんで楽しかったです。</li> <li>・Mくんがまえまわしするとき、65回もとんですごかったです。</li> <li>・はしりとびはかんたんかなとおったけれどむずかしかったです。</li> <li>・いろいろなとびかたをしたのしかった。</li> <li>・じぶんでももう少しはやくとべるように</li> </ul>

<p>いすうはふえるよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もうちょっと足を上げてとべばいいよ。</li> <li>・とぶときもっと足をもっと上げればいいといわれました。</li> <li>・足をたかくあげたらもっととべるよ。</li>   <li>・まえとびのバランスをきをつけて。</li> <li>・うしろとびがじょうずだよ。</li>   <li>・はなまるだよ。</li> <li>・Mくんにもうちょっと足を前にやるとんだらいいよ。</li> <li>・はやくとぶといいよ。</li> <li>・とてもじょうず。</li> <li>・バランスをちょっとくずしているよ。</li> <li>・もうちょっとはやくとぶように。</li>   <li>・うしろとびをもうちょっととべたらいいな。</li> <li>・もうちょっと足をまえにやるとんだらいいよっていわれてうれしかった。</li> </ul>	<p>なりたいとおっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かた足のときつまさきでとんだらかるくとべることがわかりました。</li> <li>・どのとびかたもたのしかった。つぎはどんなとびかたをするのかたのしみです。</li> <li>・まえはあまりできなかつたけれど、こんどはできるようになりました。</li> <li>・いちばんよくとべたのは88回だったのでよかったです。</li> <li>・たのしかったです。</li> <li>・うしろとびがじょうずにできました。たのしかったです。</li> <li>・たのしかったです。</li> <li>・アドバイスをもらってうれしかったです。</li> <li>・たのしかったです。</li> <li>・みんなもじょうずでした。</li> <li>・もっとうまくなりたいです。</li> <li>・いろいろなとびかたをしてたのしかったです。</li> <li>・すぐたのしかったです。</li> </ul>
--	---

◎3時間目 「たくさんとべるようになろう」

**表3 児童の学習カードより（なわとびあそび）**

友達からのアドバイス	本時を振り返っての感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・足をひいてとんでいたら、Kちゃんがあしをくっつけてとぶともっととべるよ。</li> <li>・もうすこしはやくなわをまわせばいいよ。</li> <li>・もうちょっとはやくまわせばいいよ。</li> <li>・まわしかたがはやかったから、ゆっくりやればいいよ。</li> <li>・とぶときにもちょっとはやくまわす。</li> <li>・はやくとぶよかいすうがふえるよ。</li>   <li>・とてもじょうずにとべているよ。</li> <li>・もうちょっとリズムにのってとぶとい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足をとじてとぶといいんだなとおもいました。</li> <li>・なわとびがたのしかった。</li>   <li>・たのしかったです。もっとちがうとびかたにもちょうせんしたいです。</li>   <li>・うしろまわしとかたあしとびがまえよりのびてよかったです。</li> <li>・たのしかったです。</li> <li>・このつぎはリズムにのってとびたいで</li> </ul>

<p>いよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わきをもっとしめて、あしをもっとしめて。</li> <li>・もっとはやくする。</li> <li>・まえまわりがじょうずだよ。</li> <li>・かたあしとびをがんばって。</li> <li>・ちょっとじょうずでした。</li> <li>・さいしょはゆっくりとんでだんだんはやくとぶ。</li> <li>・もうすこしはやくとべばいいよ。</li> <li>・とてもきれいにとんでいました。</li> <li>・かかとをあげてとんだほうがいいよ。</li> <li>・手のうごきやとびかたがうまい。</li> <li>・はやくととべてのがはなまる。もうちょっとゆっくりとんでいい。むずかしいからゆっくりと。</li> <li>・すらすらととべていてねいだよかったです。</li> <li>・まわすところがよかったっていわれました。</li> <li>・手をちいさくまわす。</li> <li>・もっとはやく</li> <li>・けんけんとびをもうちょっときれいにとべればいいね。じょうずだったよ。</li> <li>・手をもうすこしはやくまわせばいいよ</li> </ul>	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばってともだちにアドバイスをしました。</li> <li>・つぎはもっとはやくとぼうとおもいます。</li> <li>・とてもたのしかったです。</li> <li>・すこししかとべなかつたからこんどはいっぱいとべるようにがんばります。</li> <li>・ずっとまえのたいいくよりもうまくなりました。</li> <li>・まえまわりがとてもこのまえよりかいですうがふえてびっくりしました。</li> <li>・とてもたのしかったです。</li> <li>・さむくてうまくとべませんでした。</li> <li>・まえまわしとびがたのしかったです。</li> <li>・いろいろなとびかたができてたのしかった。</li> <li>・とてもたのしかったです。</li> <li>・まえよりいっぱいまわれたのでよかったです。</li> <li>・とてもたのしかった。</li> </ul>
---	--

なわとびあそびの学習を振り返ってみると、最初は相手の動きを見忘れたり、アドバイスし忘れる子もいた。その際にアドバイスされる側も受け身にならずに、とび終わったら「どうだった。」と自分のこと相手に聞き返すようにさせた。そうすることにより、相手に必ずアドバイスをする必要性がでてくるので、アドバイスがもらえないという子がいなくなった。上記の学習カードを見ると、子どもたちなりにアドバイスをし合っていること、それから、アドバイスをもらってうれしかった子がいること、また、それを生かそうとしている子どもがいることがわかる。以上の結果から、ペア学習を進めることによって、動きを見合う対象がはっきりとするため、相手の動きに注目しやすくなることがわかった。それによって、アドバイスもスムーズにし合えたようである。ただ、子どもたちのアドバイスの内容が単元の前半で押さえた技能のポイントに注目したものが少なかったため、単元前半の技能のポイントを思い出させるなどの、それに対する手だては必要だと思われる。

## 実践2 「マットあそび」(基本の運動)

①対象児童 弘前大学教育学部附属小学校1年1組 28名

②日時 平成17年12月

1～3時間目「いろいろなまわりかたにちょうせんしよう」

(準備運動) 毎時間マット運動につながる逆さ感覚、回転感覚を養うために、次の運動を取り上げた。

- ・どうぶつ歩き                      ・うさぎ跳び                      ・あざらし歩き                      ・ゆりかご
- ・ブリッジ                              ・首倒立

### <取りあげた回り方>

- ・まえまわり
- ・よこころがり
- ・うしろころがり

教師が取り上げた基本的な技能のポイントは以下の通りである。

**表4 取り上げた技能のポイント(マットあそび)**

回り方	技能のポイント
まえまわり	・手のつきかた    ・回転の仕方    ・体の丸め方    ・立ち上がり方 ・まっすぐ回転する    ・ひざを閉じる
よこころがり	・転がる方向    ・体の緊張 (まっすぐ転がる)
うしろまわり	・手のつきかた    ・回転の仕方    ・体の丸め方    ・立ち上がり方 ・まっすぐ回転する    ・ひざを閉じる

◎4時間目 「いろいろなコースにちょうせんしよう」

**表5 児童の学習カードより(マットあそび)**

友達からのアドバイス	本時を振り返っての感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・じょうずにまわれているよ。</li> <li>・じゅうずにまわれているよ。</li> <li>・どうぶつ歩きをもっとがんばってといわれました。</li> <li>・はなまるといわれました。</li> <li>・もうすこしまっすぐといわれました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっといろいろなコースがあったらいいな。</li> <li>・みんながはなまるといってくれてうれしかったです。</li> <li>・今度は手と足をちじめて転がってみます。</li> <li>・ブリッジ、まえまわり、どうぶつあるきがたのしかったです。</li> <li>・さいしょはかんたんだとおもったけれど、やったらむずかしかったです。</li> </ul>



- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもじょうずだよ。</li> <li>・きれいにまわってるよ。</li> <br/> <li>・はなまるといわれました。</li> <br/> <li>・あしをもっとくっつけてといわれました。</li> <li>・はなまるでした。</li> <br/> <li>・もうすこしちゃんとできたらいいね。</li> <br/> <li>・Yくんのくるくるまわるのがじょうずでした。</li> <li>・ふたりともじょうずでした。</li> <li>・じょうずとか、とてもじょうずといわれました。</li> <li>・まがってるよといわれました。そのつぎ気をつけたら、はなまるといわれました。</li> <li>・はなまるといわれました。</li> <li>・うしろまわりをもっとがんばってといわれました。</li> <li>・ともだちによくできたねといわれました。とてもうれしかったです。</li> <br/> <li>・もうすこしはやくまわってといわれました。</li> <li>・ごろごろさかみちコースでMちゃんがまがっているよとおしえてもらいました。</li> <br/> <li>・足がちょっとずれているよ。</li> <br/> <li>・うまいよとかじょうずだよといわれました。</li> <br/> <li>・足がちょっとずれているよ。</li> <li>・OKといわれてうれしかった。</li> <li>・はなまる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ともだちとできてとてもたのしかった</li> <li>・いろいろなコースをまわってうれしかったです。もっといろいろなコースをるくりりたい。</li> <li>・きんちょうしたけれど、Hくんがはげましてくれてうれしかったです。</li> <li>・つぎはもっとあしをくっつけたいです。ブリッジがたのしかったです。</li> <li>・いままでのマットのなかでいちばんたのしかったです。</li> <li>・ブリッジやゆりかごをしたのしかったです。マットのかたちやとびばこをつなげたものでいろいろなことがやりたいです。</li> <li>・ごろごろさかみちコースがよくできました。</li> <li>・たのしかったです。</li> <li>・いろいろなことをしたのしかったです。</li> <li>・ともだちとペアになれてうれしかったです。</li> <li>・ブリッジがたのしかったです。</li> <li>・バランスをうまくやればよかったなどおもいました。</li> <li>・見てもらって、おしえてもらったのでこんどはじょうずにできるとおもいます。</li> <li>・ごろごろさかみちコースをたのしかったです。</li> <li>・つぎはごろごさかみちコースをがんばります。はなまるだといわれてうれしかったです。</li> <li>・チーターあるきがすごくたのしかったです。</li> <li>・いっぱいアドバイスをもらってうれしかったです。また、アドバイスをもら</li> <br/> <li>・チーターあるき（どうぶつあるき）がすごくたのしかったです。</li> <li>・見ておしえてもらったからこんどはじょうずにできるとおもいます。</li> <li>・どうぶつあるきのどうぶつがいっぱいふえてうれしかったです。さかみちコースにちょうせんしたい。</li> </ul> |
|--|--|

## ◎5時間目「いろいろなコースにちょうせんしよう」

表6 児童の学習カードより（マットあそび）

友達からのアドバイス	本時を振り返っての感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもじょうずといわれました。</li> <li>・はなまるだよといわれました。</li> <li>・つなわたりコースをもうちょっとバランスよくといわれました。</li> <li>・すこししっぱいしたけれど、ほかはよくできていました。</li> <li>・じょうずにまわっていました。</li> <li>・バランスがくずれているよ。</li> <li>・きれいにまわっているよといわれました。</li> <li>・どうぶつあるきがじょうずだったよ。</li> <li>・よこころがりうまくできた。</li> <li>・ブリッジのあたまがついているよ。</li> <li>・足をくっつける。</li> <li>・ころころコースでまっすぐにまわれるようにしてね。</li> <li>・手をついちゃいけないよ。</li> <li>・はなまる、じょうずといわれました。</li> <li>・もっとがんばってとおしえてくれました。</li> <li>・はなまるだよといわれました。</li> <li>・ゆりかごのもっといきおいをつけて</li> <li>・はなまるだよ。</li> <li>・まるとかまあまあって言ってくれたからたのしくできました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ともだちにじょうずだよといわれてうれしかったです。</li> <li>・もっとむずかしいとうりつにちょうせんしたいです。</li> <li>・もっとむずかしいコースがあってもいい。</li> <li>・ぜんぶたのしかった。ともだちとできてたのしかった。</li> <li>・二人でまわってたのしかったです。</li> <li>・どうぶつあるきをがんばりたいです。</li> <li>・もっとじょうずになりたいです。しっぱいしたけれどたのしかったです。</li> <li>・ともだちがこえをかけてくれてうれしかったです。あたらしコースができてうれしかったです。</li> <li>・どうぶつあるきのどうぶつがいっぱいふえてうれしかったです。</li> <li>・どうぶつあるきがよくできました。</li> <li>・あたらしいコースがたのしかったです。</li> <li>・すごくたのしかったです。</li> <li>・まっすぐまわれるようにがんばりたいです。</li> <li>・いろいろなコースがあってたのしかったです。</li> <li>・いろいろなコースがあってたのしかったです。</li> <li>・ともだちがおしえてくれたからできました。</li> <li>・あたらしいコースがたのしかったです。</li> <li>・ゴリラあるきがおもしろかったです。</li> <li>・あたらしいまわりかたにもちょうせんしたいです。</li> </ul>

マットあそびの授業における子どもたちの姿を見てみると、なわとびあそびでの学習を踏まえ、子どもたちはお互いの動きを見合うことに慣れてきている様子であった。アドバイスのやりとりもスムーズに行われていた。ペアを組んでいろいろなコースを回り、さまざまな課題に挑戦することをもっとよろこんでいた。「足をもっとくっつけて」「まっす

ぐまわって」「手をついちゃいけないよ」「いきおいをつけて」など技能面のつまずきに触れるようなアドバイスができるようになってきている。また、アドバイスをうける児童もそれを課題として受け止め次時につなげていた。また、技能面だけではなく、友達の励ましが子どもたちに与える影響は大きく、活動する意欲につながっていることが、感想からうかがえる。

**表7 児童の変容（児童の学習カードより）**

（①・・・友達からのアドバイス ②・・・本時を振り返っての感想）

S・M児

なわとびあそび		マットあそび	
2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
①バランスをくずしているよといわれました。よくなりたいとおもいます。 ②しっばいしてもたのしかったです。	①かた足とびをもうちょっとながくつづけて。 ②かた足とびをがんばろうとおもいます。	①まがっているよといわれたけれど、つぎははなまるになりました。 ②ペアになれてうれしかったです。	①バランスがわるいよといわれたけれど、あとからまっすぐまわれました。 ②ともだちとまわってたのしかった。

S・T児

なわとびあそび		マットあそび	
2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
①まさしくんにもうちょっと足をまえにやるとんだらいいよっていわれてうれしかった。 ②たのしかった。	①ちょっとじょうずだったよ。 ②すこししかとべなかったからこんどはいっぱいとべるようにがんばります。	①EくんにOKといわれてうれしかったです。 ②見ておしえてえしてもらってうれしかったです。こんどからはじょうずにできるとおもいます。	①OKとかまあまあとかいわれてうれしかったです。 ②あたらしいコースができてたのしかったです。

## I・Y児

なわとびあそび		マットあそび	
2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
①足をたかく上げるといっばいとべるよ。 ②いちばんよくとべたのは88かいだったのでよかったです。	①足をひいてとんでいたら、足をくっつけてとぶといいよといました。 ②Mちゃんが足をとじるととべるよといったときわたしはそうなんだなおもいました。	①ちよつとごろごろさかみちコースでまがっているよといったのでつぎはがんばります。 ②さかみちコースはちよつとまがったけれど、ほかはなまるだったからうれしかった。	①ころころコースはちよつとしっばいしたけれど、ほかはよかったですよ。 ②ぜんぶたのしくてちゃんとやれてうれしかったです。

## K・A児

なわとびあそび		マットあそび	
2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
①もっとはやくとべるように ①もう少しながくとべるように ①じぶんでももうすこし早くとべてとおもいます。 ②かた足とびのとびつまさきでとんだらかるくとぶことができました。	①かかとをあげてといわれました。 ②あまりよくとべませんでした。	①どうぶつあるきをがんばってといわれました。 ②手や足をちじめてころがるころころコースがほしいです。	①まっすぐにまわってといわれました。 ②こんどは二人でまわってみたいです。

子どもの変容を学習カードをもとに見てみると、S・M児の感想からは、マットあそびの単元に入ってから、友達とかかわって運動することの楽しさを感じてきていることがわかる。それは、S・T児の感想からもうかがえる。友達の励ましやアドバイスが、運動に意欲的に取り組む力になっているようである。また、I・Y児の学習カードからは、友達のアドバイスを前向きに受け止め、自分の課題として取り組む姿勢も見られるようになった。A・K児の学習カードからは「速く」「かかとを上げて」「まっすぐ」など学習した技能的なポイントに気がつき、アドバイスができるようになってきていることが分かる。以上のことから、ペア学習を取り入れたことにより、お互いの動きを見る力も養われ、より技能を高めることができたと思われる。さらに、友達とかかわって運動することの楽しさも味わわせることができた。

## 6. まとめと今後の課題

基本の運動（なわとびあそび・マットあそび）をもとに仲間と共に伸びる力を育てる実践を試みた。単元の前半で技能のポイントを押さえ、それをもとにペアでさまざまな動きに挑戦させた。お互いの動きを見合い、友達のつまずきに気がつき、アドバイスをし合う活動を行った。その結果、学習カードを見ると、1年生なりに友達の動きに気がつき、アドバイスし合っていることがわかり、回数を重ねるごとに技能のポイントにふれたりとその質も高まってきている。このような、活動を継続していくと、より子どもたちのお互いを見る目も高まり、技能も高まるであろう。

実際に子どもたちの授業での様子を見ると、なわとびあそびではとぶ回数が増えたり、とび方がリズムカルになったりしていた。マットあそびにおいても基本を踏まえた回り方が身に付いてきた。この結果から、友達とかかわって運動を行うことで、基本の運動のねらいでもある「基本的な動きを身に付ける」こともより容易にできるのではないかと思われる。

また、子どもたちの学習カードの感想を見ると、友達と活動することに楽しさを感じていることがわかる。やはり、仲間とかかわることで運動の楽しさが増すのであろう。

以上のことから、動きを見合う対象をはっきりとさせたペア学習は、相手の良い動きに気づかせたり、アドバイスをし合う力を育成するには適した手段であったといえる。友達とかかわることで、さらに運動の楽しさを体感でき、意欲も増した。

今後は、さらに様々な題材で継続して実践を重ね、アドバイスと技能のかかわりをより研究していきたい。どんなアドバイスでどんなところに気を付け、技能がどのように伸びていったかを調べていきたいと考える。

## 参考文献

- 1) 高橋健夫（1998）：これは簡単！器械運動 マット・跳び箱・鉄棒 学事出版
- 2) 尾崎勝、西君子（1980）：学級担任のための児童理解必携 教育出版
- 3) 杉山重利、宇土正彦、嘉戸脩、細江文利（1989）：新しい体育授業の展開 大修館書店
- 4) 佐藤学（2004）：習熟度別指導の何が、問題か 岩波書店